

2024年7月18日
株式会社新日本科学

<https://www.snbl.co.jp>

(証券コード:2395 東証プライム)

病理解析で高いAI技術を有するbiomy社との資本提携について

株式会社新日本科学（本社 鹿児島県鹿児島市、代表取締役会長兼社長：永田良一、以下「当社」）は、病理画像と空間トランスクリプトーム¹⁾のAI解析分野で高い技術を有する株式会社biomy（本社 東京都中央区、代表取締役社長 小西哲平、以下biomy社）との資本提携契約を締結し、同社のAI解析製品開発を支援することを決定しましたのでお知らせいたします。これまでに約92百万円の出資を行い、当社の持ち分比率は10.3%となります。

biomy社は病理AI技術による個別化医療の実現を目指しており、同社の病理AIソフトウェア「DeepPathFinderTM」²⁾は製薬企業や研究機関等で利用されています。

近年、がん免疫療法や分子標的治療の進展に伴い、薬剤の有効性や患者さんの予後において、腫瘍周囲を構成する「がん微小環境（TME）」が重要であることが明らかになっています。特に、biomy社は患者さんごとのTMEを構成する様々な免疫細胞の空間情報に焦点を当てています。TMEには数万から数十万の細胞が広がっており、これらを識別し、空間情報を定量化・解釈することは日常診療において困難です。biomy社は、独自の病理AI技術を活用してこれらの細胞を識別/定量化する技術を有しており、新たな有効性指標の確立や患者層別化のための研究を行っています。近年では病理画像と空間トランスクリプトームを組み合わせた解析技術も開発しています。また、同社は、病理画像AIの第一人者である東京大学大学院医学系研究科衛生学分野 石川俊平教授との共同研究により解析のアルゴリズムを開発しています。

病理画像や空間トランスクリプトーム解析技術の普及は、新たなバイオマーカーの発見やがんの複雑な発生メカニズムの究明などが期待でき、多様で複雑ながんの理解深め、新たな治療法や予防策の開発に繋がると予想され、創薬と医療技術の向上支援を使命とする当社の企業理念と極めて親和性が高いと考えています。更に当社事業へのAI基盤技術の導入支援にも繋がると期待しています。

当社はこれからも「環境、生命、人材を大切にできる会社であり続ける」の企業理念に基づき、ライフサイエンス分野における先端技術の研究開発と医療現場での応用・技術向上を目指す事業を支援することで、「人類を苦痛から解放する」という当社使命を果たすべく、実直に行動を続けてまいります。

- 1) 空間トランスクリプトームは、組織内の特定の位置での遺伝子発現を測定する技術です。従来のトランスクリプトーム解析は、組織全体からRNAを抽出して平均的な遺伝子発現を測定しますが、空間トランスクリプトームでは、組織の微細構造を保ちながら、特定の細胞や区域ごとの遺伝子発現を解析します。
- 2) DeepPathFinderTMは研究用途での利用に限ります。

以上

【本件に関するお問い合わせ】
(株)新日本科学 IR広報統括部
TEL: 03-5565-6216
E-mail: ir@snbl.com